
ずっと空を見ていた

美咲 董

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ずっと空を見ていた

【Nコード】

N8563B

【作者名】

美咲 董

【あらすじ】

空を見ていると飽きがないと思うのは私だけでしょうか。「空」をテーマにして書いた詩です。

ずっと空を見上げてきた。

儂さと切なさ胸に込み上げて、目を逸らさずに。

手を伸ばしても届かない、叫んでも返ってこない。僕は雨に濡れることも厭わないのに。

なぜ雨に濡れるの？

全てを洗い流してしまいたい。

今日あった嫌なこと、昨夜見た夢のこと、これから来るであろう未来のこと。

全部、全て。もう二度と思い出さないように。

忘れられたの？

忘れられるはずがないって、分かってた。

思い出すことは簡単だから、思い出さないように記憶の奥深くへ葬ったつもり。

この先、それに躓くことがないようにしたかった。

思い出したら？

人生は長いから、それを思い出すこともある。

そのときは泣いてしまいかもしれないから、誰かが傍にいて肩を抱いてくれたらいい。

その誰かを見つげるために、辛いものとさよならを。

なぜ空を見上げるの？

ずっと空を見ていた。

誰とも目を合わせたくなくて、僕は独りになりたくて上を向いた。空が見えた。

雨。

僕の泣き声を掻き消して。

雲。

僕の泣き顔を見えなくさせて。

太陽。

流れた涙を乾かして。

月。

何も言わずに寄り添って。

星。

僕の気休めに。

ずっと空を見ていた。

ずっと、空を見ている。

僕は何を忘れようとしたのかを忘れて、空から目を逸らした。
何を忘れようとしたのか思い出そうとしても、それは僕が望んだ
ことだから僕は思い出すことをしてはいけない。
何を忘れようとしたのかを忘れてしまった今は、それはどうでも
よくて。

だけどやっぱり僕は、

ずっと空を見ていたんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8563b/>

ずっと空を見ていた

2010年10月9日02時11分発行